

令和4年度 学校経営報告

都立青山高等学校長 小 澤 哲 郎

1 4年度の取組目標と方策

(1) 学校経営
ア 組織 (ア) 教育職員 全教職員が学校経営に参画するとともに、企画調整会議が中心となって課題の解決に当たる。 ・Webアンケート、学校ホームページ、公式Twitter等を活用し、エビデンスを重視した学校経営 ・学習から生活、特別活動等までにおける生徒・保護者に係る情報の迅速な共有 ・自己申告に学校経営計画の具現化のための目標設定 ・体罰や個人情報漏えい等の服務事故の防止 ・企画調整会議の活性化、各教科との連携が必要な局面で企画調整会議に教科主任が参加・担当部署に関らず、学校行事等の運営への積極的協力 ・校内研修、進路職員会議等による教育課題の共有化 ・教育改革を見据えた教育課題の解決 ・ITによる業務の効率化（学校ポータルサイトによる保護者への迅速な情報提供と共有）による職員の負担軽減と在校時間の可視化によるライフワークバランスの重視 (イ) 行政職員 課題ごとに、管理職と一体となってPT方式によりその解決に当たる。 ・固定観念や前例にとらわれない柔軟な発想に基づく学校経営を行う ・適正な予算編成・執行と財務管理の徹底 ・施設・設備の安全維持に要する業務の着実な推進 ・進路部、広報部、生徒部の多様な業務を財務面から支援 ・ITによる業務の効率化（学校ポータルサイトによる保護者等への迅速な情報提供と共有、紙資源の節約による印刷労力と経費の削減）による職員の負担軽減とライフワークバランスの重視 イ 施設・設備組織 施設・設備の安全確認・点検等を定期的に行うとともに、改修改善を要する施設・設備については増改修要望を利用して学校経営支援センター、都立学校教育部と連携して安全な教育環境の維持改善を図る。 ・暑さ対策のため全校個別空調新設の要望 ・自習室や廊下ラウンジの学習環境の整備 ・ドラフトチャンバー配管更新工事 ・1階障害者用トイレ自動ドア改修、トイレ換気扇修繕 ・バスケットゴール修繕、プール配管修繕、排煙窓の修繕、体育館手すりの修繕 ・雑用水槽ポンプの修繕 ・テニスコート人工芝の修繕
(2) 学習指導・進路指導
ア 学習指導等 「作問力は指導力」をスローガンに、教員の専門性の向上と、国公立大学進学に対応した学習指導の展開を目指す。 ・大学入試改革を見据えた自校作成問題の継続、校内学力テスト、定期考査の改善

・長期休業期間中の講習を生徒の進路希望別の内容で実施 ・管理職が指定した教員の授業見学の実施、指導教諭による授業公開の活用、特別講習等の継続 ・英語教育研究推進校としての取組、一人1台端末等を活用した新たな学習指導 ・青高の100冊の改定と不読率の低減、金融教育等の喫緊の教育課題に対応した学習指導 ・Tokyo Global Gateway（英語村）の活用
イ 進路指導 「進学指導」重点校としての役割を教職員が認識し、将来の社会貢献を見据えた指導をとおして、真に学びたい、学ぶべきことを発見させ、その学びを深めるために真に適した分野（学部学科）と大学を志望するよう「進学指導」を行っていく。進路部と各学年が連携して計画的に進路指導を行うとともに、生徒一人一人の実態を教職員全員で把握し、各教科等での適切な指導を継続する。 ・共通テスト、及び二次試験を想定した校内学力テスト・定期考査の実施と分析 ・進路職員会議、ケース会議、進路研修会等を定期的に開催 ・長期休業期間中の講習を生徒の進路希望別の内容で実施 ・生徒の志を育むため、各学年等を対象とした文化講演等を実施 ・望ましい勤労観・職業観を育むキャリア教育の実施
（3） 生徒の健全育成と心身の健康
ア 健全育成 教育活動の全般をとおして、公共心や道徳心、規範意識や社会貢献の意識を育むとともに、他者を思い遣る人間性を醸成する。 ・あいさつ指導等の実施 ・美化活動等の実施 ・ヤクルト球団やブラジル大使館等の地域行事を通して、地域貢献と社会性の涵養を実現 ・校長による人材育成の一環として、いじめ防止対策委員会の規模拡大と定例実施 ・自主自律の精神と民主主義を尊ぶ生徒会活動の指導 ・連携協定に基づく港区立青山小学校、同立青山中学校、都立青山特別支援学校との交流の継続 ・ニュージーランド、ハットバレーハイスクール等の海外の生徒との交流 イ 心身の健康 学校保健計画に基づき、生徒の心身の健康づくりに資する取組を推進するとともに、個々の生徒に応じた指導・支援を行う。 ・特別支援教育推進委員会の規模拡大と定例実施 ・カウンセリングや相談体制の強化 ・合理的配慮や支援を必要とする生徒への支援 ・スクールカウンセラーや特別支援教育コーディネーターを活用した相談体制の強化 ・例年深刻化する拒食生徒のケアと保護者の啓発
（4） 特別活動
ア 行事等 学校行事のねらいを達成し、文化・芸術・運動等に生涯にわたり親しむ素地を培う。また、ホームルーム活動のねらいを達成するために、年間指導計画を立てる。 ・進路実現に結びつく立志のための文化講演の実施 ・文化・芸術に親しむ行事の実施 ・防災に係る活動に親しむ行事の実施 ・体育活動に親しむ行事の実施 ・読書活動に親しむ行事の実施

イ 部活動	・進路実現に向けた意識の高揚 ・Tokyo Global Gateway（英語村）を活用した英語体験学習の検討 部活動への加入を奨励し、文化活動や体育活動をととして、生涯にわたり健康で文化的な生活を送るための基礎を培う。 ・部活動加入率 95%以上 ・公的発表会等や外部指導員等の配置に必要な予算措置 ・事故等の未然防止と万一の場合の適切かつ迅速な対応の徹底 ・顧問教諭や関係教諭、スクールカウンセラー等による面談等の実施 ・地域の小中学校、特別支援学校との部活動をととしての生徒同士の交流活動の展開 ・難関国立大学との部活動をととしての交流と進路に関する懇談の復活実施
(5)	地域貢献 ・オリンピック・パラリンピック教育等をテーマに、地域の外国大使館等と英語による講演等の文化活動や交流活動の展開 ・地域の特別支援学校との障害者スポーツをととしての交流活動の展開 ・祭礼等の地域行事への参加や地域の清掃活動などの実施 ・地域や地域の企業、関係機関と連携した防災訓練の復活実施 ・港区立青山小学校・港区立青山中学校・東京都立青山特別支援学校との連携 ・ヤクルト球団、ブラジル大使館、日本青年館等の近隣諸団体との連携の強化
(6)	広報活動 ・行事や部活動等の教育活動の情報発信の活発化 ・学校説明会、学校見学会、放課後の個別相談会、入試問題解説会等を年 8 回以上開催 ・近隣中学校等への出前広報活動の復活実施 ・中学生対象の体験授業（サマースクール）の復活実施 ・塾等への出前広報活動 ・Twitter による情報発信を年 500 回、フォロワー累計 3,000 達成 ・YouTube 青高チャンネルの開設と動画による学校紹介・部活動紹介

2 成果と課題

(1)	学校経営 <成果> ア 組織 (ア) 教育職員 ・企画調整会議を中心として学校経営上の課題解決に取り組むことができた。また、各教科との連携が必要な局面で企画調整会議に教科主任が参加することで、情報共有を円滑に行えた。 ・学校ポータルサイトの本格実施により、劇的な業務縮減を実現するとともに、紙資源の大幅な節約も達成。同時に、保護者への情報伝達の迅速性・確実性が格段に向上し、PTA・保護者から評価を得た。学習から生活、特別活動、コロナ関連等まで、PTA・保護者と情報を共有し、迅速に課題に対応することはほぼ達成できた。 (イ) 行政職員 ・今年度大幅に制度改正があった入学選抜業務について、教務部と連携し、課題を十分に把握した上で、迅速かつ正確な処理をすることができた。 ・生徒の就学支援金等の需給状況、教職員の在校時間等の集計、施設設備の改善状況の三つの特命業務を、3人の主事に継続して分担させ、データを公表することにより、業務改善に直接
-----	---

	結びつけるとともに、3人の主事の説明資料作成能力の向上を一定程度実現できた。 ・積立金や部費等の私費の適正な管理を行うことができた。 イ 施設・設備組織 ・安全確認・点検等を定期的に行うとともに、改修改善を要する施設・設備について、所管の学校経営支援センターとの連絡・調整を行い、トイレ改修の推進、体育館付属設備の改修、ドラフトチャンバー配管の更新、粗大ごみの撤去等教育環境の整備を図ることができた。 ＜課題＞ ア ・学校経営方針を踏まえ、教育活動の一層の成果を上げるために、進学実績向上に資する専門性の一層の向上に努める。 ・グラウンドデザインの策定を踏まえ、新教育課程をスタートすることができた。総合的な探究の時間については、従前の総合的な学習の時間から脱皮し、令和6年度からの本格実施を目指して、PTにより令和3、4、5年度と3年間準備を重ねるとともに、外苑地域の諸団体と連携した探究活動を学校行事として実施して、知見を積み重ねているところである。 ・個々の生徒に応じた学習指導や相談の展開が、一定程度できた。エビデンスからは、ホームルーム活動や面談の課題は減少している。 イ ・新採を1年ごとに担当業務を変える育成の仕方に課題があることから、令和4年度の配置については、中堅職員の配置を要望するとともに、担当業務を2年連続にする方針に転換することとした。その結果、担当業務の理解が深まり、自ら業務改善を行うことにより事務の効率化が図られた。 ・冷温水発生器による空調が十分に機能しなくなったことから、全教室に個別空調装置を設置するよう要望した。 ・プールろ過機、全熱交換器の配管など、古くなった設備の更新を要望した。 ・グラウンド整備が進んでいないので、人工芝生化と外構整備に取り組んでいく。 ・感染症予防のため、水道の水栓をコック式、または、センサー式に取り換えることができるよう、教育庁への要望を行う。また、サーキュレーターやCO₂測定器の維持管理を適切に行うことが課題である。 ・トイレの悪臭の改善策として、換気扇の改修を行うとともに、排水溝の溜水の水位を維持するメンテナンスで対応することとした。
	(2) 学習指導・進路指導
	＜成果＞ ア 学習指導等 ・年間指導計画の改善を行い、単元ごとの到達目標を設定、教科会での進捗状況の確認・調整も行った。 ・Webアンケートを活用した生徒による授業評価を年2回実施し、その結果を公表して、教員が指導の工夫・改善を図った。 ・校長が指名する教員の相互授業見学を年2回実施するとともに、一人1台端末の活用については、小池百合子東京都知事の視察や東部学校経営支援センターの事業や教職員研修センターの研修講座の一環として、本校の実践を視察してもらうことができた。 ・令和2年度に策定した「青山高校における教育活動のICT化推進の基本方針」に基づき、令和3年度から、一人1台端末の先行導入を行った。令和5年度からは、全学年で一人1台端末の活用できるようになる。 ・デジタルサポーターの活用により、コロナ禍におけるオンラインの式典や後援会等を円滑に実

施することができた。昨年度中には、全校で平常時間割どおりに科目別にオンライン授業を実施し、知見を積み重ねてきたが、今年度は、感染症対策の徹底により、生徒が自宅でのオンライン授業を受けるといった状況は回避できた。

イ 進路指導

- ・東京大学現役合格者を1名、一橋大学13名、東京工業大学4名、医学部医学科1名、難関国公立大学現役合格者を22名輩出し、進学指導重点校としての教育委員会の目標を達成することができた。国公立の医学部合格者を4年連続で出せたことは大きな成果である。一方、コロナ禍による地方大学敬遠の影響は一定程度回復し、難関大以外の旧帝大への合格者は11名となった。
- ・3年生全員の共通テスト受験を2年連続で実現できた。国公立大学現役合格者を97名輩出し、難関私大は263名、実合格者176名と進学実績の向上を図ることができた。今年度は、難関私大合格力公立高校全国1位（ダイヤモンドオンライン）となるなど、難関私大の合格者は確実に伸長している。
- ・進路全体計画を策定し、校内学力テスト・外部模試・講習補習や面談等着実な実施を図った。特に、校内学力テストや定期考査においては、大学入学共通テストを見据えた新傾向の問題、思考力・判断力・表現力を問う記述式の問題、初見の問題を、主要教科で実現することができた。同時に、教員の指導力の向上（作問力は指導力）につなげることができた。一方、多忙感から、記述式問題を十分に出题できていない科目（教員）も散見され、したがって、評価規準や評価の観点が十分に確立できていない科目（教員）が一部にあることが課題である。
- ・進路職員会議を年6回実施し、模擬試験の分析や個に応じた指導方針を検討した。
- ・模擬試験の結果を踏まえ、生徒の苦手とする分野を把握した指導の重点化を図るとともに、校長が生徒を激励する訓話を行うなどして生徒の学習意欲を高めた。

<課題>

ア 学習指導等

- ・教職員が受験指導と「進学指導」の違いを十分に認識しているとは言えない状況にある。真の進学指導重点校としての地位を固めるには、「進学指導」の意味を認識し、学校経営計画に基づいて日々実践していくようにベクトルを一方向に集中させていくことが課題である。
- ・学年ごとの指導に差が生じないよう、教科会での議論を促す工夫を継続するとともに、いまだ実現できていない教科主任会を開催して、学校経営計画の浸透と課題の共有化を図ることが急務である。
- ・高等学校学習指導要領及び高大接続改革に対応したカリキュラムを策定することができたころから、文理別や必修修・選択履修等を想定した、3年次の実際の時間割の策定に必要な調整や運用の仕方を検討していく。
- ・授業改善と個々の生徒に対応した補習・講習の一層の充実
- ・観点別評価の共通理解の促進
- ・IT化した授業評価の結果を分析し、成果の挙げられている指導方法等を教科・学年で共有

イ 進路指導

- ・進学指導重点校としてのミッションや学校経営計画を深く理解し、教職員が同じ方向に向かって尽力できるよう、より一層進路指導部のイニシアチブが発揮できるよう、校内の体制を改善する必要がある。令和5年度は、学期に1回は拡大進路部会を開催し、進路部主導でガイダンスや模擬試験等の進路指導を進めるよう強く指導していく。
- ・令和5年度は、進路指導の「青高スタンダード」の完成年度としており、進路部主導により、3年間を見通した進路指導の標準形を完成させていくことが課題である。
- ・他県の進学校と肩を並べるためには、校内学力テストの精度向上が必須であり、引き続き「作問

力は指導力」をスローガンに、自校作成問題や小論文問題の作成の機会を捉え、教員の力量を高めていくことが課題である。 ・模擬試験の合格判定のみに頼り、安易な進路指導を行わず、信頼度の高まっている校内学力テストを重視して組織的な進路指導を行えるよう教員の専門性の向上を図ることが課題である。 ・合格大学別の校内学力テスト・定期考査の分析 ・長期休業期間中の講習を生徒の進路希望別の内容で実施 ・受験指導と進学指導の違いを明確に意識した生徒指導が行えるよう、教職員への研修と目的意識の共有を図っていく。
(3) 生徒の健全育成と心身の健康
<成果> ・校長の朝の立哨指導をはじめ、教員が挨拶指導を率先垂範し、礼節指導の充実を図った。生徒の心身の健康状態、出席の状況を把握するために欠かせない、重要な指導であることを、教職員にさらに強く意識させることで、一層の成果向上を図れるものとする。 ・We bアンケートによるいじめ等に関する調査を年2回実施し、未然防止・早期発見に努め、自他の生命や人権を尊重する豊かな心や態度の育成を図ることができた。令和4年度は、学校マネジメント強化事業による副校長支援員や、進学指導重点校加配の1名減の代わりに配置されることになった進学情報専門員を活用し、エビデンスに基づく教育活動を支える重要な作業を担えるよう育成することができた。 ・保健室の健康指導やケアは、大きく改善し、学校評価の結果もそれを反映するものとなった。コロナ対策、その他の感染症対策も万全に行うことができた。教育活動への負の影響を最小限に抑えることができた。また、拒食症生徒への対応は、関係機関や関係部署と連携・調整を密に行うことができた。 ・年度途中から、産婦人科医及び健康相談員を試行的に配置することができ、生徒相談等への効果が期待できるものとする。 ・スクールカウンセラーを活用したいじめ対策委員会や青山特別支援学校からのコーディネーターと連携した特別支援委員会を開催し、支援を必要とする生徒の情報を管理・共有し、指導・育成に役立て、継続的に生徒・保護者を支援した。 <課題> ・産婦人科医の活用、S Cとの連携、いじめ対策委員会や特別支援教育推進委員会との情報共有を実現していくことが今後の課題である。 ・健康診断の電子化に向けて、実務的な準備を進めていくことが今後の課題である。 ・S Cにつなげることができなかった事案があったことが最大の課題である。 ・基本的生活習慣の一層の定着 ・生徒の心身の健康の増進 ・相談体制の一層の充実と生徒情報の共有 ・欠席の多い生徒へのスクールカウンセラー等を活用したメンタルケアの一層の支援
(4) 特別活動
<成果> ・活動の加入率は、7月、12月の両時点で95%と、多くの生徒が部活動に熱心に取り組んだ。 ・青山フィルハーモニー管弦楽団は文化部推進校としてT o k y oそうぶん祭2022に参加することができた。2年連続でヤクルト球団と連携して、神宮球場内でプロ野球公式戦の中で生演奏を行うことができた。また、日本青年館でのオーケストラフェスタにも第5回大会以来の連続出場を果たすことができた。令和5年度は、5月の定期演奏会も復活できる見込みである。

・体育祭は種目を減らすなどして、全校的に実施し、保護者の参観も実現できた。 ・外苑祭は、感染症対策を行ったうえで、保護者や中学３年生とその保護者に抽選で参観してもらうことができただけでなく、７０分公演で全クラス２１クラスが演劇に取り組むという新しい外苑祭の形式を確立することができた。今後、これが伝統として受け継がれていくであろう形式を生み出すことができた。 ・ラグビー部は、渋谷インターナショナルスクールとの連携交流活動により、本校ラグビー部生徒がインターナショナルスクールの児童・生徒を指導しつつ、一緒にプレーするという活動に継続して取り組んだ。また、ラグビーリーグワンの公式戦運営のボランティア活動にも取り組んだ。 ・令和５年度に部への昇格を目指すクイズ研究会は、ＴＢＳテレビ東大王に出場し、準決勝まで進出し、本校ＰＴＡから奨励賞を受賞した。 ・男子バスケットボール部は、進学指導重点校に呼びかけ５年前から実施してきた難関大学との部活動をとおしての交流活動を復活できた。運動部活動と将来への志を育てる指導の融合を図る取り組みとして今後も重視していく。 ・男子バレーボール部は、顧問教諭が国際審判資格を有することから、部活動の一環として、春高バレーやＶリーグ公式戦でのラインジャッジを経験することができた。 <課題> ・東京都大会等における実績の向上 ・怪我の未然防止策の徹底や事故が起きた際の迅速かつ適切な対応
(５) 地域貢献
<成果> ・ボッサ青山は例年より規模を縮小して行われたが、軽音部の生徒が、イベント運営の補助としてかかわることができた。連携協定を締結した日本オラクル社と連携協定を締結し、１年生の希望者７名を対象に通年でキャリア・メンタリング・プログラムを実施するとともに、１、２年生全員を対象に、「デザイン思考の実践」というテーマで大規模な探究活動を実施できたことは成果であり、令和６年度からの本格実施に向けて大きく前進できた。 ・外苑祭では、三越伊勢丹と連携協定を締結し、古着を演劇衣装として提供していただくことで、ＳＤＧｓに貢献することができた。 ・地元の小学校での「絵本読み聞かせ」、地元の特別支援学校との「音楽交流会」については、コロナ禍により動画配信や手作り楽器の寄贈を余儀なくされてきたが、今年度は、対面により実施することができた。地元の中学校とは体験授業の計画を進めてきたが、コロナ禍により実現できなかった。 ・日本青年館、ＴＥＰＩＡ、明治神宮外苑、日本スポーツ振興センター、霞ヶ丘自治会等、青山外苑前商店街、神宮前二丁目商店会、日本オラクル社、三越伊勢丹等の地域の諸団体との連携協定を継続・新規で締結し、今後の連携強化の道筋をつけることができた。また、在校生への奨学金を提供していただいている外苑会とも連携協定を締結することができた。 <課題> ・日本オラクル社との連携による探究活動を継続し、令和６年度には、総合的な探究時間を学習指導要領の趣旨に最も合致する形に改善していくことが課題である。 ・コロナ禍のために十分な実施ができていない、地域の外国大使館と連携したパートナーシップ校等の形態による海外の高等学校との緩やかな推進事業（ニュージーランド ハットバレー・ハイスクールとの連携協定を締結済）の推進が今後の課題である。
(６) 広報活動

＜成果＞

- ・学校説明会、入試問題解説会、放課後の個別説明会等を開催し、広報活動の充実を図った。
- ・ホームページやTwitter、YouTube「青高チャンネル」等を活用して、教育活動の特色等を発信した。

＜課題＞

- ・広報活動と校内のD Xは密接な関係にある。令和5年度は「D X探究部」新設し、教育活動におけるI Tの活用と対外的な広報活動の充実をそれぞれに推進していくことが課題である。
- ・コロナ禍で中止している中学校を訪問しての広報活動、学習塾等における学校説明（コロナ禍の間は動画撮影）の復活を目指すことが課題である。
- ・Y o u T u b e「青高チャンネル」やT w i t t e rによる情報発信の継続
- ・デジタルサイネージの安価での導入再開

3 今年度の数値目標

		数値目標	4年度実績
1	難関国立大・国公立医大現役合格者	25人	18人
2	難関国立大学（旧帝大含む）現役合格者	40人	23人
3	国公立大学現役合格者	110人	79人
4	難関私立大学（早慶上理）現役合格者	延べ180人	実67人（延べ227人）
5	外苑祭来校者	実施そのもの	2,000人
6	学校説明会参加者（年3回）	実施そのもの	実施、1,500人
7	学校紹介動画再生回数	6,000回	11,226回
8	学校説明動画	年度途中から目標に設定	1,751回
9	入試問題解説動画再生回数	4,000回	3,651回
10	部活動紹介動画	2,000回	1,525回
11	ホームページ更新回数	毎週	250回程度
12	Twitter 発信回数	1,000回	1,200回
13	Twitter フォロワー数	4,000超	3,320